

ジョイント講演会について
(教育情報共有化プロジェクト・実践報告及び講演会)

2005 年 12 月 1 2 日 (月) 午後 2 時 ~ 午後 5 時 たかつガーデンにて。

2 時 ~ 2 時 50 分 実践報告「携帯電話を活用した授業」

発表者：大阪府立柏原東高等学校 田中 清隆 教諭

3 時 ~ 4 時 30 分 講演「IT を活用した学力向上」—その現状と課題—

滋賀大学教育学部 宮田 仁教授

宮田教授は、滋賀大で行っている携帯を使う遠隔授業で学生に「意見」を言わせ、集計も瞬時に出る工夫や愛知万博で教授が開発した携帯のデータベース技術により来館者のアンケートなどコミュニケーションが増えた例など興味深い例を紹介した。情報教育は、生徒がわかり、出来、楽しむ授業で、教師は、IT を活用する指導方法を工夫し改善する必要があることを具体例で示してくれた。

授業における IT 活用の留意点としては、IT 技術が先ではなく授業のねらいにあわせて活用を考える。教師に必要なのは、授業設計能力で、資料を用意し、提示の仕方や教示の与え方などを生徒それぞれの学習をファシリテートしていく中で考えてゆくことである。授業のねらいにあった器具・道具を使用する。授業設計の大切さ、授業で何を生徒に理解させたいと思っているのかをよく考え、いろんな流れに備えて、準備する必要性をマグネシウム燃焼実験の実践例で示してくれた。生徒個々が知識を得るだけでなく、コミュニケーションすることで知識を確かめ深めてゆくことができる授業例である。

教師に必要とされる広い意味での情報活用能力を授業設計との関連でとらえると、次の 6 つの力が大切である。1 生徒の主体的な探求的学習活動をデザインする力、2 生徒個々の主体的学習活動の結果を予測できる力、3 生徒の主体的探求活動を支援するための準備ができる、4 教師自身に課題解決のための情報活用能力 (情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参加する態度)、5 いろいろなメディアを適切に組み合わせて活用する力、6 生徒の探求活動を知識の量だけではなく、知識の再構成や解決過程の面から適切に評価やアドバイスできる。また、紙や鉛筆だけでなく、情報ネットワークや情報機器等のツールを使った問題解決を適切に評価できるか。

また、高等学校地歴科教師の「教科指導における IT 活用の効果」アンケート結果も紹介してくれた。世界史ではインターネットによる調べ学習で関心・意欲が深まる、日本史ではプロジェクターを使用し具体的イメージを持たせ関心・意欲が深まる、地理では写真・ビデオ・IT を活用し世界の諸地域の地理的環境や生活の知識・理解が深まるという評価結果がでている。

